

麻酔科

○ 麻酔科の概要

1. 麻酔科の特色

麻酔科研修の意義は刻一刻変化する生体情報を体験し、これに臨機応変に対処できる能力を習得するべく、研修を行う事にあります。埼玉医科大学病院は general teaching hospital の役割を有し、総合診療科をはじめとする多くの内科系診療科、外科系では整形外科、産婦人科（悪性腫瘍を除く）、耳鼻咽喉科（悪性腫瘍を除く）、皮膚科、形成外科、眼科、小児外科および歯科・口腔外科があります。麻酔科では上記の診療科の手術症例に対する周術期管理を行っています。特に産科麻酔、小児麻酔、人工関節、脊椎手術、腹腔鏡下外科、急性腹症、泌尿器手術、デイスージェリーなどの対応を数多く経験できます。また、ペインクリニック外来も開設しており、帯状疱疹、腰下肢痛などの難治性疼痛患者の治療を行っています。一方、癌性疾患、心血管疾患、脳外科的疾患、救急部門は約 3 km離れた埼玉医科大学国際医療センターで扱っており、小児心臓麻酔、心臓血管麻酔、脳脊髄神経麻酔、疼痛管理（緩和医療における除痛担当）、がんに対する大手術などは国際医療センターで研修します。両病院の麻酔科は一体となり診療、教育を行っています。これらの部門を希望に応じてローテーションし、それぞれの専門性の高い分野は各分野の専門家の指導を受けるシステムになっています。

2. 診療実績

2023 年度の手術部手術件数は 6645 例、麻酔科管理件数は 5094 例でした。

3. スタッフ

三枝 勉 (准教授 (診療部長)) 臨床麻酔、ペインクリニック

土井 克史 (教授) 臨床麻酔、区域麻酔、救急蘇生

今町 憲貴 (教授) 臨床麻酔

中山 英人 (教授) ICU 専従

長坂 浩 (特任教授) 臨床麻酔、ペインクリニック、救急蘇生

井手 康雄 (客員教授) 臨床麻酔、ペインクリニック

前山 昭彦 (客員准教授) 臨床麻酔、筋弛緩、小児麻酔

紫藤 明美 (客員准教授) 臨床麻酔、区域麻酔

尾崎 道郎 (講師) 臨床麻酔

納谷一朗太 (講師) 臨床麻酔

西澤 秀哉 (講師) 歯科口腔外科麻酔

中村 智奈 (助教) 臨床麻酔

堀越 雄太 (助教) 臨床麻酔、糖尿病

伊藤 直樹 (助教) 歯科口腔外科麻酔

臣永 麻子 (助教) 臨床麻酔

相崎 邦雄 (助教) 歯科口腔外科麻酔

野木 武洋 (助教) 歯科口腔外科麻酔

舘野 健 (助教) 歯科口腔外科麻酔

南雲 拓海 (助教) 歯科口腔外科麻酔

岡 泰浩 (助教) 臨床麻酔

小肩 史佳 (助教) 歯科口腔外科麻酔

浅賀 英之 (助教：専攻医) 臨床麻酔

ほか、非常勤教授、非常勤講師、非常勤医員

4. 臨床研修プログラムの特色

GIO(一般目標)

麻酔科における研修期間は通常 4~8 週間で、希望により研修期間を調整します。この期間での麻酔学の修得目標として、①手術予定患者の状態、既往歴、合併症などを的確に把握して麻酔・手術の可否を判断でき、手術適応患者に対しては適切な手術時の麻酔管理計画ができる能力を体得すること、②手術患者や救急患者に対して必要とな

る気管挿管などの気道確保や緊急時の処置、救急救命的治療法の正確な知識と技能を習得すること、③術中の麻酔管理を実践すること。これらを通じて、将来、医師として必要不可欠な、重症患者の全身状態、呼吸循環動態や体液代謝バランスの変動を適切に把握し、病状に応じた的確に対応する方法を学修し、生命管理学の真髄を体得して頂いています。ペインクリニック外来の実習は麻酔科での長期研修や研修（選択研修）希望者のみを対象としています。

SBOs(行動目標)

- 1) 手術患者の状態、既往歴、合併症などを把握し麻酔管理の計画が立てられる。
- 2) マスキング、気管挿管、エアーウェイ、声門上器具などによる気道確保と、用手および機械的人工呼吸ができる。
気管挿管目標一か月 30 例
- 3) 静脈、中心静脈、動脈ラインの確保ができる。
- 4) 局所浸潤麻酔、粘膜麻酔ができる。
- 5) 脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔の管理が出来る。
- 6) 全身麻酔、静脈内鎮静法による術中管理ができる。
- 7) 循環作動薬、筋弛緩薬、鎮痛薬などの投与、輸液管理が適切にできる。
- 8) 術後患者の状態が正確に把握できる。

5. LS(研修方略)

週間スケジュール

原則、月曜日から金曜日までの定期手術の麻酔管理を研修しますが、緊急手術の麻酔管理も上級医と経験するチャンスがあります。積極的な参加をお待ちいたします。

麻酔科研修スケジュール

幅広い麻酔科の研修を効率よくできるよう、カリキュラムは次のようになっています。

1～4 週目

- ・ 輸液の講義
- ・ 静脈確保の実践
- ・ 気道管理の講義・実践
- ・ 気管挿管（成功例 30 例）
- ・ 麻酔に使用する主な薬剤について説明できる
- ・ 合併症のない症例の麻酔管理の実践
- ・ 麻酔科カンファレンスでのプレゼンテーション

5～8 週目：【指導医を選択できる】

- ・ 脊髄くも膜下麻酔の実践
- ・ difficultairway への対応
- ・ 困難な合併症を有する麻酔管理の実践
- ・ 小児麻酔の実践
- ・ 神経麻酔の実践
- ・ 産科麻酔の実践

個人のスキルと達成度と希望により柔軟に対応いたします。また、第 1 週目は麻酔科標榜医や専門医（指導医）の麻酔を見学し、各科の手術を麻酔科的立場から学修するとともに、麻酔に必須の事項についての集中講義で麻酔学を学びます。

EV(評価方法)

術前回診、朝のプレゼンテーション、気道管理、全身管理等、総合して評価いたします。

以上、麻酔科 4 週～8 週間の研修で、術前患者の状態の把握に必要な診断技術、麻酔管理や救急患者管理に必要な基本的な手技と知識が修得でき、急変する患者の病態に臨機応変に対応できるような研修の場を提供しています。

6. 研修に関する問い合わせ先

埼玉医科大学麻酔科 TEL: 049-276-1271 (麻酔科事務局) 三枝 勉 (准教授 (診療部長))